

7. 高冷地における水稻の全量基肥施肥法

福島県農業試験場冷害試験地・平成11年度春夏作試験成績概要

- 1 部門名 水稻－水稻－施肥法 01－01－13000000
2 担当者 佐藤紀男
3 要 旨

平坦地ですでに普及に移されている水稻の全量基肥施肥法を高冷地にも適用できる技術にするために、初星を供試して試験を実施した。

- (1) 平均収量でみると、肥効調節型肥料の配合割合30%、50%、70%区の区間差は認められなかったが、収量の安定性、稈長が短いこと、登熟歩合が高いこと等からみて、肥効調節型肥料の配合割合は50%程度が適すると判断した。
- (2) 耕起前施肥の場合、肥効調節型肥料の配合割合50%の区と穂肥をN0.2kg/aプラスした慣行区の収量がほぼ同等であり、全量基肥施肥法では慣行施肥法に対してN0.1～0.2kg/a程度の減肥が可能と考えられる。
- (3) 肥効調節型肥料の種類は、LP70かそれと同等の肥効のものが適する。
- (4) 以上の結果から、初星クラスの熟期の品種で全量基肥施肥法を行う場合、①LP70かそれと同等の肥効調節型肥料を選び、②速効性肥料と肥効調節型肥料の配合割合を1:1程度とし、③慣行の施肥体系の穂肥分(窒素1～2kg/10a)を減肥する。